

# 緑の相談所だより

{ 6. 7月号 ~1991. 6.30~ 発行・編集 旭川市緑の相談所 }

## 講習会

### ▶山草、夏にむけての管理

日時 6月9日(日) 午後1~3時

講師 北海道山草趣味の会

会長 村田 悠治氏

### ▶鉢物の植替

日時 6月23日(日) 午後1~3時

講師 村田 正一 相談員

(緑の相談所)

内容 ◇観葉植物・鉢花  
その他



hibiscus

### ▶樹木類の生育と管理

日時 7月14日(日) 午後1~3時

講師 小島 博昭 相談員

(緑の相談所)

内容 生活の仕方とその管理

~1年を通して~

## 展示会のお知らせ

6月8 ▶ 9日 (土 ▶ 日)

## 山草展示会

場所/時間 = 旭川市緑の相談所ロビー  
午前9~午後5時

※いずれの講習会も一般市民の方の参加をお待ちしております！

## ☆園芸を楽しむために!

ルキョウト=蛭石を砕いて高温で処理したもの。さし木、その他に使う。

桐生砂=桐生周辺から出る重い火山灰土、盆栽、山草、オモトなどの栽培に使う。

B-ナイン=茎の伸長を抑制するホルモン剤補助仕立てなどに使う。

ミズゴケ=湿地などに生える蘚類、ラン、アナスなどを植える時に使う。

お申し込み・お問い合わせは・・・  
緑の相談所(神楽岡公園) ☎65-5553





◎**観葉植物の葉はビールでふく**

▶飲み残しのビールを脱脂綿に含ませてふくと葉のツヤが“ぐん”と違ってきます。ビールの栄養分が吸収されるのかも！

◎**ニンニク殺虫液**

▶①ニンニク玉1個をすりつぶします。②水1ℓを加えて布でこします。③5倍に薄めて散布します。

※〔アブラムシ・ハダニなど〕に効くそうです。

◎**切り花の水上げ = 美しい草花を長もちさせるために**

▶①茎を切る時は水の中で斜めに切ります。②切り口を縦に何本か入れます。③塩を切り口にすりつけます。④花瓶の水に・

砂糖・酢・日本酒いずれか1種類を少量加えます。

◎**吸盤がくなくなった吸盤はお湯に入れば元どおり**

▶吸盤は、タンタン吸着力が落ちてきます。落ちてきた吸盤を煮立ったお湯に1~2分つけておきます。これで元どおり！壁にピッタリとつくようになります。



見つけよう！ 楽しもう！



神楽岡公園 !!



~アラリ散歩道

木陰からまれる木もれ日も、肌には心地よく感じる季節です。

別にこれといった目的も持たずに、ただ“アラリ”と森の中に入りなんとなく歩く。「アレッ！！」こんな植物がこの森にあったのだろうか。あらためて、よく見ると毎年楽しませてくれる植物なのですが、その時の自分がおかれている状態や、その時その時の環境条件によって感じ方が違うものなのです。同じものであってもいろいろな楽しみ方ができるのが“森をバックにした公園”の一番の良さでもあります。

森のニオイのする中を“アラリ、アラリ”と歩きながら、鳥の鳴き声、花の美しさをそれぞれの楽しみ方を十分にあげたいものです。

これから咲き出す植物

バイケイソウ、オオアマドコロ、タチツボスミレ

チシマアザミ、クガイソウ、ヨツバヒヨドリ

ウバユリ、など・・・





7月頃から気温が高くなります。暑い時元気に生長するものと、暑さに弱くて夏バテするものがあります。それぞれの性質に応じて育てることが必要です。

### 洋らん類

(1)シンビジューム⇒6月から外に出し、日光のよく当たる風通しのよい所に置く。油粕と骨粉の玉肥を4～5個、鉢の上に置き肥する。6月、7月、8月の始めに新しいものと取り替える。その他に水で1000倍にとかした肥料を1週間に1回ずつ与える。水は毎日タップリと与える。シンビジュームは日光と肥料と水のいずれが不足しても花がつかない。

(2)デンドロビューム⇒6月から外に出し、日光によく当てる。油粕の玉肥をいま3～4個1回だけ置き肥。1500倍～2000倍にとかした水肥を週1回7月いっぱい与える。

(3)コチヨウラン⇒ミズゴケが古くなっているものは至急植え替える。古いミズゴケをきれいに取り除き、新しいミズゴケで小さめの素焼き鉢に植え替える。植え替えの後3週間は水を与えないで、1日に2回くらい葉に霧水を与えて水分を補うと発根がよい。

根の先が緑色になって生長し始めたもの、新しい葉が伸び始めたものには、ミズゴケの表面が乾いたら底から抜けるくらい水を与える。

直射日光では日焼けするのでレースのカーテン越しくらいの所に置く。

3000倍くらいの薄めの水肥を週1回与える。夏の気温の高いとき元気に生長する。

(4)カトレヤ⇒株元から伸び始めた新芽を夏の間しっかりと育てる。この時期の栽培によって今年、花芽が出来るかどうかきまる。

日光と風、適当な水分、肥料とで新芽は盛んに生長し、早いものは8月ころにはシース（花芽）が見えてくる。

カトレヤは風が好きなので、朝方の最低気温が15度以上になる6月下旬から8月中旬すぎまで屋外の風通しのいい所に出す。直射日光では日焼けするので30%くらいの日よけをする。水は毎日与え、肥料は3000倍に薄めた水肥を週1回施す。

### 観葉植物類

室内の観葉植物も、寒さの心配がない夏の間は外で日光浴をさせると元気がつき、冬もあまり弱らない。ただし急に日光に当てると日焼けするので、曇りや小雨の日にだし、1週間くらいかけて明るい日陰から徐々に日に当てる時間を伸ばしながら慣らしていく。7月中旬～8月中旬の暑い時期は午後の日はさえぎる方がよい。直射日光に弱いものは明るい日陰に置く。

(1)日光を好むもの→ゴムノキ、ベンジャミン、ガジュマル、カボック、ユッカなど

(2)明るい日陰を好むもの→タマシダ、カラテア、ディフエンバキア、スパティフィラム、アフェランド、など。

### クジャクサボテン

外に出し、日光に慣らしてから十分に日光に当て、草花と同じように水、肥料を施す。7月いっぱい肥料は止め9月から水もへらしていく。

シャコバサボテンも夏の間は草花と同じように育てる。

### 病気、害虫の防除

病気や害虫の発生が盛んになる。殺菌剤、殺虫剤を葉裏に丁寧にかける。病気害虫の種類によって効く薬が違うので、症状をよく観察して相談の上薬をもとめること。



これから温度の上昇時期です。▶ 温度の上昇とともに樹木類の生育もさかんになりますが、同時に病虫害の発生も多く見られるようになります。

樹木類を病虫害から守るために一番大切なことは健全な樹木をつくることです。健全なものには病気、虫などはつきづらく、かりに病虫害にかかったとしても健全なものには抵抗力がありますので立ち直りも早いことになります。

### ◆薬 剤 に よ る 防 除

薬剤による防除はあくまでも二義的なものであり健全な木を育てる手段としての薬剤による防除と考えた方がよいのではないのでしょうか。

ごく一般的でしかも多く見られる病虫害をあげると、次のようなものがあります。

### 《 害 虫 》

- ▶ アブラムシ = 庭木、果樹、草花、鉢物などほとんどの植物に発生がみられる吸汁性の昆虫で、アリと共生するものです。植物のまわりをアリが動き回っている場合には、アブラムシがいるものと判断し、良く観察し大量に発生する前に防除することが大切です。防除薬剤としては、スミチオン乳剤、マラソン乳剤、エストソクス乳剤、スブラサイド乳剤、などが有効です。
- ▶ カイガラムシ = 植物の幹、枝、茎、葉などに寄生する吸汁性の昆虫です。薬剤の殺虫効果を高めるためには、カイガラムシのカイガラ（殻）の軟らかい時期を選んで薬剤散布をすることが大切です。防除薬剤としては、スブラサイド乳剤、カルホス乳剤、ビニフェート乳剤、石灰硫黄合剤、などが有効です。
- ▶ ケムシ類 } = 一般的にいわれている、ケムシ、アオムシはテヨウや方の幼虫で主に  
アオムシ類 } 葉を食害します。防除薬剤としては、オルトラン水和剤、ダイブテレックス乳剤、カルホス乳剤、などがあります。又果樹類の果実が発生するものには、開花前からオルトラン水和剤などの劇物以外の薬剤を使用することも大切なことの一つです。
- ▶ コガネムシ = ネキリムシといわれるのがコガネムシの幼虫で、主に針葉樹類や果樹の根を食害します。防除薬剤としては、成虫、幼虫のどちらにも効果のあるダイブテレックス乳剤・粉剤、カルホス乳剤・粉剤、ビニフェート乳剤・粉剤などがあります。
- ▶ ハダニ類 = 植物の葉に多く発生します。個体が小さいので葉などを良く観察することが大切です。防除薬剤としては、ケルセン乳剤、オサダン水和剤、モレスダン水和剤、などが有効です。

### 《 病 気 》

- ▶ ウドンコ病 = 草花類、広葉樹類に多く発生し、葉の表や裏に白っぽいカビが発生し、次第にひろがります。防除薬剤としては、ベンレート水和剤、トップジンM水和剤、ダコニール水和剤、石灰硫黄合剤、などがあります。
- ▶ ス ス 病 = 植物全般に発生するもので、アブラムシ、カイガラムシなどの分泌物の中に含まれるカビ菌といわれていますので、アブラムシ、カイガラムシを駆除すると同時に風とおしを良くすることによって自然にきえてゆきます。